

みんなとともに笑顔いっぱい — 創立百周年 その先の未来へ みんなとともにスマイルミッション —



みんなとともに



Web ページのブログに記事をアップしなければ、と思いながら、最近手薄になっていました。楽しみにしている保護者の皆様、大変申し訳ありません。

さて、1学期も残り3週間となりました。最近、朝のあいさつがよくなってきたことがうれしいです。遠くからあいさつの声が聞こえるようになりました。たくさんの成長が見られています。



【校長のつぶやき(拡大版)】 その17 「学校と保護者が手を取り合って」

朝、郵便受けの新聞を取ろうとしたら、「LIVING」(6月28日発行 福島リビング新聞社)が入っていました。たまたま一面を見たら、「先生と保護者の関わり方」という表題が目がとまりました。取材を受けていた方は、添田和子先生でした。添田先生は、私の3代前の清明小学校の校長で、現在、福島県教職員相談室 教職員相談員をしておられます。私も、最近考えていたことがあったので、今回はその記事を取り上げてみようと思います。

〈添田先生が語っていたこと〉

「世の中の風潮として『OかX』か、『100か0』かで判断する傾向があります。完璧な人間などいません。教師についても長所も短所も総合的に見て関わってほしいですね。」

「学校は、学習以外にも集団で生活することの大切さや人と関わることの素晴らしさなど、社会の中で生きていく上で大切なことを学ぶ場です。家庭は、わが子の良さを認め、大事に育てられていること、希望を持って生きていくことの大切さを教え素の自分を出せる安全基地です。教師は子どもにとって『働く大人』を家庭外で見ると初めてのお手本。『人間っていいな』『人は信頼できるんだ』ということ伝えていく存在になればいいと思います。子どもたちは、それぞれの先生と触れ合うことで影響を受けます。さまざまな先生との出会いこそが将来、社会人として生活していく上で生きる力につながっていると信じています。」

「若くてエネルギッシュな先生も、キャリアがあってまじめな先生も、子どもにとっては大切なお手本。子どもは、教師の長所・短所、個性、性格を驚くほど感じ取る力があります。家庭で先生に対して不安を口にしたり、悪口を言ったりすると、子どもに良いことはありません。私自身の経験ですが、過去に、『若い先生の時には家で学習やしつけをしっかりする、ベテランの先生の時には家ではゆったり過ごさせる』ということを実践していた保護者がいて、なるほどと教えられました。双方向のよりよい関わりが、子どもの成長に大切です。」

最近、「教師のリーダーシップ」について考えていました。「価値観を子どもに提示するのが教師の仕事だ」と私は考えています。価値観を提示すれば、「そうだ」と思う子、「ちがう」と思う子もいるでしょう。でも、その過程で、個々の子どもたちの「価値観」がつかられていきます。一番いけないのは、価値観がぶれること。その度に異なる価値観で対応していたのでは、子どもの中に価値観がつかられませんし、子どもからの信用を失ってしまいます。

子どもが「教師への不平や不満」を家族へ話すときは、どうぞじっくりと「共感的に」聞いてあげてください。でも、お願いしたいことは、「同調」してその思いを“増幅させない”でいただきたい、ということです。

子どもが不平や不満を話すということは、親子の関係が“よい状態”にある、ということです。話をきいてもらえれば、家でエネルギーを充電して、「学校でまたがんばろう」と思うことができます。

これからも、学校と家庭が協力して、子どもの中に「よい価値観」を根付かせていきましょう。

(添田先生の文章の引用については、福島リビング新聞社の許可を得ております。)

「カブトムシ」を いただきました

5年2組 荒木慧にさんのお家の方から、カブトムシの成虫をいただきました。

各学級で世話をしながら、生き物に親しませたいと思います。

ご厚意に感謝いたします。



「学校環境ボランティア」募集

校庭の雑草処理、花壇の植栽の世話、校舎内の清掃など、学校の環境を整えるためには、人手が多少ほど助かります。

これらの環境を整えるために協力をしていただける方はいらっしゃらないでしょうか。都合のつくときで構いません。

情報をお待ちしています。